

方の中には、進歩的な教育觀を樹立し、幼稚教育を理解させ、これをおし進めていらした先生の御苦労、御努力は、血みどろ、そのものであります。いま尚、私が先生から受け継いで、生活の信条にしていきますことは、『熱をもって仕事にあたれ。積極的な人間であれ。』人の言に素直に服せ”であります。またその反面先生の人間味は、あふれるような、あたたかさで人を包み、本当に人のためにはその労をいとわず、何處までも出向かれて、お世話をしているにはらっしゃいました。堅実な御人格は、どこまでも、相手の人に貫き通さずにおかない熱意と努力を、傾けつくす方であります。また世間ばなしなどもよくされて、涙をこぼしては、お話を楽しんだものでした。御趣味は、能狂言がお好きのように存じています。つい、先頃まで、遠く福島の方へ、一ヶ月に何回か御出張になつて、保育者のための教鞭をとつていらっしゃることを伺いました時、先生は、私の三男が早く他界しましたので、社会に何ら奉仕することができませんでした。こともの分を、私が報いてやりたいと、一生懸命、老軀ながらつとめています。

この、お言葉をきいて、親心の尊さ、あたたかさと人の心の真にふれたような気がして、私も血のたぎりを覚えて、神仏に手を合わせました。秋分の日に、いまは亡き先生のお姿を、いく冊かのアルバムにおしのびしながら、このような先生の高潔な、あたたかい心構えを、私の胸に蘇らせて、全生涯を幼児教育のために、捧げつくされた崇高な態度に合掌して、先生のお教えをうけた一人として、更に、この道に精進しなければならないと、心に期したものであります。

お ち ば

村 井 ト ミ

(晩秋の雑木林にて)

風も吹かない

風が吹く

だれもいない

木の葉が散る

かさりと木の葉が

くるくるさわいで

おちてきた

まわってく

しづかに下りて

高く低く

土の上

流されて

そうっと見上げて

遠くちりぢり

うつむいて

別れてく

おとなにだまつて

一人旅で

すわってる

淋しそう

「おとなに」はおとなしくの意